

日本語による
近代ギリシャ文学・語学文献目録（4）

佐藤 りえこ・橘 孝司

「目録(1)」(『プロピレア』3号, pp.64-83)、「目録(2)」(同5号, pp.105-110)「目録(3)」(同6号, pp.63-66)に続いて「目録(4)」を以下に掲げる。古代ギリシャ語学・文学については『西洋古典学研究』(日本西洋古典学会)に詳細な文献目録が掲載される。ビザンツ時代に関しては「ビザンツ研究者のつどい」による「文献目録」(小田謙爾編)および『日本における古代・中世「東欧」史関係研究文献目録(1984年-1994年)』[立正大学西洋史研究資料I](延広知見・柏倉知秀編, 1995)に詳しい。

荒木 英世

(1995)「ギリシア語単語基本2000」語研。

井浦 伊知郎

(1994)「現代ギリシア語との対照によるアルバニア語の前置詞 *në, mbi, te* の機能の研究」『プロピレア』6, 8-18。

池澤 夏樹

(1987)訳:H.ミラー「ギリシアの最初の印象」『世界知の旅1 神々とエーゲ海の誘惑ギリシア』pp.130-164. 綜合社。

Henry Miller, *First Impressions of Greece*. 1973.

伊藤 照夫

(1996)「セフェリス『アシネーの王』の仮面について—ギリシア現代詩のひとつの可能性—」『京都産業大学論集・人文科学系列』23(印刷中)

浮田 三郎

(1994)「日本語と現代ギリシア語の天候に関する諺対照研究(2)」

鹿狩 浩

- (1969)「現代ギリシアの詩と詩人(1)」詩誌『輪』28号 pp.46-48. D.カベタナキス「ギリシアの島々」「帰還」「二つの核種(核)によって」
Isles of Greece etc.
- (1970)同上(2)『輪』29号, pp.31-34. C.カヴァフィス「ネロの死刑執行猶予」
「スパルタにて詠める」「イタケー」*Ithaca etc.*
同上(3)『輪』30号, pp.52-55. A.シケリアノス「帰郷」「アキレスの馬」
「スパルタ」
- (1971)同上(4)『輪』31号, pp.10-13. G.セフェリス「アシネーの王」
The King of Asine.
- (1972)同上(5)『輪』32号, pp.42-44. D.アントニオウ「なんの気兼ねがいるのかね」
「おれたちは海から返ってくるのがよかったか」「狩猟(か)の満月」
Εμπόδιο σε τι; Ένα φεγγάρι πιάστηκε κυνηγημένο κλπ.
- (1973)同上(6)『輪』36号, pp.39-41. O.エリティス「コリントスの太陽を飲みながら...」
「夏の体躯(からだ)」
「逍遙(ふら)つくのは、この風...」
Body of Summer.
同上(7)『輪』37号 pp.32-34. N.ガツオス「葬いの悲しみの庭には...」
「白帆の魅力にとりつかれ...」◆以上は翻訳及び詩人の概説付き
- (1975)「〈オイディプス王〉の弁証法」(ソボクレス作劇術の解釈)『盾象詩集・1975』 pp.92-97.
- (1979)訳:P.プレヴェラキス「自由の微風(かせ)」
「夕焼け空」「死はわたしの玄関(ドア)で」詩誌『盾象』90号, pp.4-5.
訳:D.カベタナキス「ABEL」同上91号, pp.2-3.
訳:A.シケイリアノス「ドーリス訛」同上92号, pp.44-45. *Doric.*
訳:A.シケイリアノス「初雨」詩誌『穹』5号, p.6. *The First Rain.*
- (1980)「オディッセウス・エリティス氏の詩について」『ギリシャ協会会報』12号, pp.10-11.
訳:G.セフェリス「神話物語-(24)」詩誌『穹』7号, p.25.
訳:O.エリティス「エーゲ海の憂鬱」詩誌『盾象』93号, pp.32-33.
Aegean Melancholy.
- (1981)訳・補注:K.カベタナキス「ギリシアの現代詩とは何か」詩誌『舟』26号, pp.4-16. *An Introduction to Modern Greek Poetry.*
訳:Y.リーツオス「アテネ1970」「朝」「昼」「夜の儀式」詩誌『盾

象』95号, pp.12-13.

書評: 関本至「現代ギリシア短編小説集」詩誌『暦象』95号, pp.44-45.

訳: K.P.カヴァフィス「異邦人を待ちながら…」詩誌『暦象』96号,
pp.32-33. *Waiting for the Barbarians.*

(1982) 訳: イオルギオス・セフェリアデス「神話物語 1,9,24」詩誌『暦象』
97号, pp.12-13.

訳: K.P.カヴァフィス「Manuel Comunenos」「Aimilianos Monae」詩
誌『穹』10号, pp.69-69.

訳: D.カベタナキス「ギックリ首の人たちへの歌」『日本詩集』1982
版, pp.22-23. *A Song for Bores.*

杉山 世民

(1994) 「新約聖書ギリシャ語を現代語式発音で教える事について」

『プロピレア』6, 61-62.

関本 至

(1995) 『落穂 関本至遺稿集』私家版(溪水社)

◆カラガーツィス「イギリス製の剣」、ヴェネージス「エーゲ海の土」
「ラミーアの老女」、ヴァレータス「勲章」、ヴィジイノース「わが
母の罪」の翻訳、各作者紹介、民話二篇、論考「近代ギリシア語研究
の問題点」を含む。Ηλ.Βενέζης, Αιολική Γη, Γ.Βιζυηνός, *Αμάρτημα
της μητρός μου κλπ.*

高橋 りえこ

(1994) 「現代ギリシア詩に於ける「俳句」の受容(2) —D.I.アンドニウの

「俳諧と短歌」に見られるモチーフについて—」『プロピレア』6,
52-60.

橘 孝司

(1995a) 「後期ビザンツ文献における前置詞 *επί*」『ニダバ』24, pp.76-85.

(1995b) 「現代ギリシャ語における二種類の空間定位」『言語研究』107, pp.
181-182. ◆研究発表要旨.

中井 久夫

(1995a) 『家族の深淵』みすず書房. ◆「イオニア海の午後」(『出版ダイジ

- エスト』1430号,1992年7月11日)、カヴァフィス「船上にて」、「私とギリシャ文学」(『プロビレア』3号)、「劇詩人としてのカヴァフィス」(『プロビレア』4号)、「リッツォス詩の映画性」(『プロビレア』5号)のエッセイ4篇とリッツォス「カヴァフィスにささげる十二詩」(『みすず』359号,1991年12月,みすず書房)の翻訳を含む。(1995b)訳:リッツォス「証言A」より「一夜」「感覚の諧調」「夏」「一心に集中の時」「ほとんど手品師」『象形文字』82,pp.15-19.
- (1996)訳:リッツォス「証言A」より「聞こえるのと聞こえないのと」「不在証明」「錨」「動きの影」「戸を叩く音」『象形文字』83,pp.2-6.

長嶋 善郎

- (1995)「現代ギリシャ語の動詞'Petó'(πετώ)と'Ríchno'(ρίχνω)についての覚書」『学習院大学言語共同研究所紀要』18号,pp.54-61.

納戸 セキコ

- (1995)訳:ファニー・パバルーカ「<童話>イルカたち」『エーゲ海学会誌』第9号,pp.41-45. Φανή Παπαλούκα, Τα δελφίνια.

福田 千津子

- (1995)「世界の民間信仰・ギリシャ・カコ・マティのお守り」月刊『言語』10月号,pp.78-89.

富士川 義之

- (1987)訳:L.ダレル「コルフ島紀行」『世界知の旅1 神々とエーゲ海の誘惑ギリシア』pp.165-178. 綜合社.
Lawrence Durrell, *Corfu*. from *The Greek Islands*.1978.

山中 啓子

- (1969)訳:ニコス・アサナシアデイス『裸の娘』二見書房. Ν.Αθανασιάδης, Το γυμνό κορίτσι.

渡辺 通弘

- (1995)「ギリシア民族の形成:大ギリシア主義の誕生」『エーゲ海学会誌』第9号,pp.30-40.